貸倒時の処理

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 仕訳をマスターしよう！

② 貸倒引当金の残高に注意しよう！

③ いつ発生した売掛金が貸し倒れたのかに注意すること！

主な勘定科目

「貸倒引当金」勘定（資産のマイナス）

「貸倒損失」勘定（費用）

（１）前期以前発生売掛金の貸倒れ

① 貸倒金額 ＜ 貸倒引当金残高

前期以前に発生した売掛金については前期末に貸倒引当金を設定しています。したがって、貸倒れ時に、「**貸倒引当金**」勘定を減少させます。

例題 **得意先が倒産し、前期の売上に関する売掛金1,000円が回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高は2,000円であった。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金	**1,000**	**売掛金**	**1,000**

② 貸倒金額 ＞ 貸倒引当金残高

貸倒引当金の残高を上回る貸倒れが生じた場合、「貸倒引当金」勘定を残高全額を減少させるとともに、その上回った金額は「**貸倒損失**」勘定（費用）で処理します。

例題 **得意先が倒産し、前期の売上に関する売掛金1,000円が回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高は800円であった。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金	**800**	**売掛金**	**1,000**
貸倒損失	**200**		

（２）当期発生売掛金の貸倒れ

　すでに学習しましたが、当期発生売掛金については、「**貸倒損失**」勘定（**費用**）で処理します。当期発生売掛金については決算が到来していないので、貸倒引当金を設定していません。そのため、貸倒引当金を用いることができないと考えて良いでしょう。

（３）貸倒れ時の処理のまとめ

・当期発生売掛金の貸倒れ　…　貸倒損失
・前期以前発生売掛金の貸倒れ　…　貸倒引当金の減少
貸倒引当金残高を上回る場合は、貸倒損失

Point!　貸し倒れた売掛金・受取手形がいつ発生したか確認すること！

償却債権取立益

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　償却債権取立益が生じる理由を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「償却債権取立益」勘定（収益）

取引先の倒産などによって、前期以前に貸倒処理した売掛金や受取手形などの債権の一部または全部が、当期に回収できる場合があります。

この場合、前期以前の処理を修正するのではなく、回収できた当期に「**償却債権取立益**（しょうきゃくさいけんとりたてえき）」勘定を用いて**収益**に計上します。前期以前に償却（貸倒処理）した債権を取り立てられた（回収できた）ことによる収益なので、このような勘定科目名となっています。

例題　**前期に得意先が倒産し、その際に売掛金1,000円の貸倒処理を行っていたが、本日、得意先の清算に伴い800円の分配を受け、同額が普通預金口座へ振り込まれた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
普通預金	**800**	**償却債権取立益**	**800**

貸倒引当金 問題

問題1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

① 得意先が倒産し、前期に販売した商品に関する掛代金50,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は37,000円であった。

② 前期に貸倒れとして処理していた売掛金60,000円のうち、20,000円が回収され、当座預金口座に振り込まれた。なお、貸倒引当金残高は18,000円であった。

③ 当期に売り上げた商品に関する売掛金16,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金残高は25,000円であった。

④ 受取手形の期末残高200,000円および売掛金の期末残高350,000円に対して、２％の貸倒引当金を差額補充法により設定する。なお、決算整理前残高試算表における貸倒引当金は7,000円であった。

⑤ 得意先が倒産し、当期に発生した売掛金123,000円のうち、23,000円はかねて注文を受けた際に受け取っていた手付金と相殺し、残額は貸倒れとして処理した。

⑥ 得意先が倒産し、前期に販売した商品に関する掛代金22,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は88,000円であった。

貸倒引当金 答案用紙

問題1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

貸倒引当金 解答解説

問題1 **解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	貸倒引当金 貸倒損失	37,000 13,000	売掛金	50,000
②	当座預金	20,000	償却債権取立益	20,000
③	貸倒損失	16,000	売掛金	16,000
④	貸倒引当金繰入	4,000	貸倒引当金	4,000
⑤	前受金 貸倒損失	23,000 100,000	売掛金	123,000
⑥	貸倒引当金	22,000	売掛金	22,000

問題1　**解説**

①　前期に発生した売掛金が貸し倒れた場合、「貸倒引当金」勘定（負債）を取り崩します。また、貸倒引当金の残高を上回る貸倒が生じた場合、その超過額を「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

②　前期に貸倒処理した売掛金を当期に回収した場合、「償却債権取立益」勘定（収益）で処理します。

③　当期に発生した売掛金が当期に貸し倒れた場合、「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

④　貸倒見積高と決算整理前の残高との差額を「貸倒引当金繰入」勘定（費用）で処理します。

貸倒見積高：(200,000＋350,000)×2%＝11,000

貸倒引当金繰入：11,000－前T/B 貸倒引当金7,000＝4,000

⑤　前受金として受け取った金額を売掛金の回収として処理します。

・前受金の受取時

現　　　金	23,000	/	前　受　金	23,000

・前受金の売掛金回収額への充当

前　受　金	23,000	/	売　掛　金	23,000

また、当期に発生した売掛金が当期に貸し倒れた場合、「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

⑥　前期に発生した売掛金が貸し倒れた場合、「貸倒引当金」勘定（負債）を取り崩します。